

イアン・ブレマー著「危機の地政学 感染爆発、気候変動、テクノロジーの脅威」日本経済新聞社 2022年10月3日刊を読む

気候変動という共通の敵

I はじめに

1. (1)2007年から2年間、シリア北部の肥沃な農地は壊滅的な干ばつに見舞われた。
(2)この地域の農業従事者の4分の3が作物を失い、**ダマスカス**にある政府も資金難に陥っていたため、ほとんど支援を行わなかった。
(3)何十万人もの人々が家族を養うために仕事を求め、命がけでシリアの各都市に押し寄せたが、そこに着いた彼らが歓迎されることはなかった。
(4)腐敗の蔓延や経済的な機会の不足に対する怒りから、既に街のあちこちでトラブルが起きていたところへ、新たに地方から人々が加わり、街は過密状態となって、住民間の緊張も高まっていった。

2. (1)2011年には、**アラブの春**が始まった。
(2)**チュニジア**から広がったこの社会不安は、**エジプト**と**リビア**で政権を崩壊させ、北アフリカと中東地域の各国政府をパニック状態に陥らせた。
(3)**シリア**にも波及して内戦が起きた。
(4)2011年当時シリアに住んでいた人々の半数が、その後殺されたか、家を追われている。
(5)内戦から逃げ、難民化した何百万人ものシリア人が国境を越え、その多くがヨーロッパにたどり着いたが、彼らはそこでも歓迎されなかった。

3. (1)当時のEUは、2008年から2009年にかけて起きた**金融危機**による経済的、政治的な余波とまだ戦っている状態だった。
(2)EU内の富裕国の納税者たちは、経済が低迷していた南欧諸国への救済措置に腹を立て、一方の南欧諸国の住民たちは、やがて歴史的な難民危機の最前線に立たされることになった。
(3)バルカン諸国からイギリスまで、人々は新たにやってきた**難民**に対して不快感をあらわにした。
(4)難民に仕事を奪われ、社会福祉サービスが食い荒らされることを恐れ、イスラム原理主義者によって頻繁に起きるテロ事件に怒った。
(5)ヨーロッパにたどり着けなかった**シリア難民**は何百万人もいて、彼らは今もなお、トルコ、ヨルダン、レバノン、およびその近隣諸国で暮らし、多くがそこから出ることを願っている。

4. (1)その次は、**ダマスカス**から西へ約1万2000キロ離れた**中央アメリカ**だ。
(2)この地域では、2014年から数年にわたってひどい干ばつが続き、**エルサルバドル**、**グアテマラ**、**ホンジュラス**が乾ききった大地と化していた。

- (3)これらの国々の農業従事者たちは次第にやる気をなくし、ひどい天候不順を乗り越えても、生活を支えるのに十分な収穫を得るのは無理だと思ってしまうようになっていった。
- (4)腐敗が蔓延し、いい仕事は見つからない。人々は貧困から抜け出せないままだ。
- (5)農作物が壊滅的な打撃を受けた地域は、村ごと消滅してしまっただころもあった。
- (6)やがて重武装した犯罪組織が暗躍するようになると、中央アメリカの人々は祖国に未来がないと見切りをつけるようになった。

- 5. (1)2018年、何十万人もの人々が中央アメリカを離れた。
- (2)アメリカにたどり着いて亡命申請をするという希望を抱いていたが、その頃のアメリカは、トランプ大統領が政権の要となる政策として「大きく美しい」**国境の壁**を築いている最中だった。
- (3)中央アメリカから来た難民たちはメキシコに足止めになり、メキシコの政治をも揺るがした。
- (4)2021年にジョー・バイデンが大統領に就任すると、密入国の仲介業者たちに促され、さらに何万人もの難民がアメリカとの国境を目指したのである。

II 気候変動は、環境だけの問題ではない

- 1. (1)気候変動について語るのに、まずは**内戦とトラウマ**を抱えた難民の話から入るとは、意外に思われるかもしれない。
 - (2)**気候変動**といえば、未だに、**溶けていく氷や海水の上昇、クジラや森林の保護**のことだと思っている人が多いため、そう思われるのも仕方がないのかもしれない。
 - (3)しかし、**地球が温暖化**すると、ある地域では**干ばつ**が、別の地域では**洪水**がと、**不安定な気象**が繰り返し災害を引き起こし、特に**若年層の人口が急増している最貧国**で人々の命と暮らしが破壊されやすい。
- 2. (1)このまま**温暖化**が進めば、**気象災害**によって何億人もの人々が住まいを追われ、そのほとんどが路頭に迷うことになる。
 - (2)難民がさまよえば、世界各地で**経済的、政治的な混乱**が起きるだろう。
 - (3)そうなることを我々はよく知っているのだが、**地政学的な観点**から、その計り知れない代償を正しく評価した人は、我々の指導者たちはもちろんのこと、ほぼ皆無である。
 - (4)**全体として損害がどれだけの大きさになるか**を知ることが、この章の目的なのだ。
- 3. (1)もちろん、気候変動だけがシリアや中央アメリカの悲惨な状況を作り出したわけではない。
 - (2)アラブの春は、中東や北アフリカ地域が数十年にわたって抱えてきた不満が噴出したものであり、また、リビア内戦にも多くの原因があった。
 - (3)エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラスは、その歴史を通じて**犯罪と腐敗**に悩まされてきた。
 - (4)しかし、**貧しい国**の中で災害が起き、突然大量の飢えた人々が祖国を追われると、**暴力的な政治的混乱**に火をつけることになりかねない。
 - (5)その火が**コロナウイルス**のように国境を越えて燃え広がれば、世界中の人々の生活を一転

させ、地獄さながらになる。

4. (1) シリアや中央アメリカでの大惨事は、ほんの始まりにすぎない。
(2) 今後、アフリカ(2040年までに55%増)、南アジア(18.4%増)、中央アメリカ(18.8%増)で人口が急増する見込みだ。
(3) 2020年から2060年にかけて、サハラ以南のアフリカだけでも労働年齢の人口が10億人近く増加すると言われている。
(4) これらの人々は、気候変動によって最も大きな打撃を受けることになる。
(5) 国連によると、干ばつに見舞われやすいサハラ以南のアフリカ諸国では、2012年から2020年にかけて、栄養不足の人々が45.6%増加したという。
(6) この急増には気候変動が中心的な役割を果たしている。
5. (1) こうした難民問題は、他の国と比べると、アメリカにとっては対岸の火事である。
(2) しかし、そのアメリカも今、独自の危機に直面している。
(3) 2021年、西海岸では未曾有の山火事が多発し、東海岸では洪水が人命を奪い、家屋を破壊し、危険な化学物質が地下水を汚染した。
(4) 気候が変動すると、災害は次々と重なり合うように起きやすくなる。
(5) 複数の研究によると、2050年までに、中西部やルイジアナ州の一部では高温多湿の状態が続き、人間が自力で体温をコントロールすることが困難になる日が年に18日も訪れるという。
(6) いずれはアメリカでも広域で食物栽培が難しくなるだろう。
6. (1) 干ばつは長期化し、より酷暑になるだろう。
(2) 暴風雨は激しさを増し、洪水がもっと頻繁に起こるようになるはずだ。
(3) 世界の指導者たちは、経済的ストレスの増大や、政治的混乱の頻発、移民の増加といった避けられない問題が起きるのを知りながら、驚くほどほとんど何の対策も打ち出してこなかった。
(4) 内戦勃発当時のシリアには約2200万人の人々が暮らしていた。
(5) そのうち大災害が起きて、どこかの国の1億人が被害に遭うだろう。
7. (1) そこで、気候変動の破壊力を今回のパンデミックと比べてみよう。
(2) 新型コロナとその影響については、この先も何年か苦闘が続くだろうが、気候変動は今後何十年も我々を苦しめ、新型コロナよりもはるかに多くの人々の生活を混乱に陥れることになるはずだ。
(3) 既に受けた被害の多くは元通りには戻せないため、今後は被害を抑えることが、次世代の世界の指導者たちにとって重要な優先課題となるだろう。

Ⅲ 「人新世」の爪痕

1. (1) 気候変動がなぜ起きるのか、今我々はその仕組みをはっきりと知っている。
(2) これまでの50年間は、人間の創意工夫と国境を越えたつながりによって、より多くの人

に力を与え、それ以前は考えられなかった経済の潜在力が解き放たれた時代だった。

- (3) グローバリゼーションによって、何十億もの人々が貧困から抜け出し、人々がより健康で長生きできるようになり、これまでにはなかった学習の機会を生み出し、より高い社会的地位を目指すことが可能になった。
- (4) だが、犠牲も伴っている。世界の天然資源は開発し尽くされ、海洋や大気の働きまでもが変わってしまったのだから、その代償を無視することはできない。

2. (1) これまでのところ、それだけの代償を払う価値は、世界の大多数の人々にとってあったといえる。

- (2) だが、我々人間が絶滅に迫りやっただけの数えきれないほどの種にとっては、そうではない。
- (3) 1970年以降、人間の食糧など、資源の消費量は加速的に増大し、哺乳類、鳥類、魚類、爬虫類の60%、河川や湖沼に生息する動物の83%が絶滅している。
- (4) これが、人間の営みが環境変化を引き起こしたとされる史上初めての時代——「じんしんせい人新世」が地球に残した爪痕なのだ。

3. (1) 我々は地球が温暖化していることを知っている。

- (2) それは簡単に測定できることなので、理解もしやすい。
- (3) 太陽は地球に向けて熱を放射している。
- (4) 地球の大気はその熱の一部を大気圏外に逃がし、地球が生命を維持できるよう、熱くなりすぎないようにしている。
- (5) 同時に、大気中の二酸化炭素は、太陽からの熱を全部大気圏外に逃がしてしまわないよう、地上から放出される熱をある程度吸収し、地球が巨大な氷の塊になるのを防いでいる。
- (6) こうして、地球は熱すぎず、冷たすぎずの状態を保っている。
- (7) この「自然の温室効果」によって、地球上の全生命は維持されている。

4. (1) ところが、エネルギーを生み、経済を動かすために我々が使っている石油、ガス、石炭は、大気中に多くの二酸化炭素を放出する。

- (2) 人類がその誕生から放出してきた温室効果ガス排出量の6分の1は、2010年から2020年までの10年間に排出されているというのだから驚きだ。
- (3) 太陽の熱は大気圏外に逃れにくくなっていて、地表は以前より熱くなってきているのだ。

5. (1) これをさらに悪化させているのは、世界の森林破壊である。

- (2) 二酸化炭素を吸収するのは樹木とそれが育つ土壌だからだ。
- (3) アマゾンの熱帯雨林は減少を続けている。
- (4) 過去10年間で、2019年はその減少率が最も高かった。
- (5) 世界の熱帯林破壊の3分の1以上がブラジルで起きているが、ボルソナロ政権はそれを止める気はないらしく、2020年にも森林破壊は広がった。
- (6) しかし、これはブラジルに限ったことではなく、中央アフリカ、東南アジアなどでも森林は破壊されている。
- (7) 2019年に世界で失われた熱帯原生林の面積だけでも、スイスの面積に匹敵する。

6. (1)地質学的な循環という長い時間で捉えると、これらはすべて一瞬で起こったことなのだ。
(2)約 260 年前に始まった産業化時代の中に、大気中の二酸化炭素量は 30%増加し、地球の気温を 1.2℃上昇させた。
(3)この変化は加速してる。
(4)観測史上最も温暖な年は地球に 20 回訪れており、それらはすべて過去 22 年の間に起きている。
7. (1)国連によると、北極および南極周辺の氷が溶け、20 世紀には海面が約 19 センチ上昇し、21 世紀末までにさらに約 91 センチ上昇する可能性があるという。
(2)現在、地表の約 1%は、いかなる種類の生命も維持できないほど気温が上昇しており(サハラ砂漠を思い浮かべよう)、2070 年には、そうした土地が 20%近くに増えると予想されている。
(3)地球の生命はこのような急激な変化には適応しきれないため、さらに多くの動植物が絶滅の危機に瀕し、人間への健康リスクも高まることになるだろう。
8. (1)地球が温暖化すると、大気中の水分も増す。
(2)気温や湿度、気圧が影響を受け、大気が不安定になって気象パターンが劇的に変わる。
(3)強い暴風雨がもっと頻繁に起こり、洪水も山火事も干ばつも増えるのだ。
9. 2018 年、世界自然保護基金(WWF)のターニャ・スティーラーは、「私たちは自分たちが地球を破壊していることを知る最初の世代であり、破壊を止めるために何か手を尽くすことができる最後の世代なのだ。」と述べている。

P150 ~ 158

<コメント>

世界の世論形成に大きな影響を及ぼし続けるユーラシアグループ代表イアン・ブレマー氏の最新著「危機の地政学」のテーマは3つ。「感染爆発」、「気候変動」、「テクノロジーの脅威」だ。今回は、2つ目のテーマ「気候変動」の最初の気候変動という共通の敵。すべて具体的、客観的な事実に基づく記載なので、一文一文ていねいに「理解」し、「現状把握」に努めたい。その上で、今やらなくてはならないことを考えたい。全人類の生き残りのためのテキスト・教科書として、本書を活用したい。是非、購入の上、全ページ精読を。

2022 年 11 月 17 日(木)林明夫